

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 校訓「質実剛健・協同進取」のもと、高い志と夢を持ち、国際感覚に優れ、多様な価値観を認めあい、社会に貢献し社会を牽引する人物を育成する学校
1. 知的好奇心・探究心を大切に、確かな学力を培い、高い志をはぐくみ、自己実現に向かってたくましく進路を切り拓く生徒を育てる学校
 2. 地域連携や協同的な経験を重ね、自他を敬愛・尊重する豊かな人間性を身につけ、社会に貢献し次代を牽引する資質・意欲を持った生徒を育てる学校

2 中期的目標

1. 知的好奇心・探究心を大切に、確かな学力を培い、高い志をはぐくみ、自己実現に向かってたくましく進路を切り拓く生徒の育成
- (1) 学習指導要領を踏まえ、「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」の実現をめざす授業・教育活動を推進する。
- ア 各教科が専門性をもとに、授業等で生徒につけさせたい資質・能力を年次進行で計画的に積み重ねていく「豊高教科スタンダード」を策定し、教科・学年・学校が共有して効果的な学習につなげる。
- イ 教員の授業力向上に継続して取り組み、教員・生徒双方が学ぶ楽しさをともにする授業をめざす。
- ウ 65分授業のよりよい運用やICTの効果的な活用について研究・研鑽を継続し、生徒の授業満足度を高く維持する。
- エ 4技能統合型の英語授業を継続し、生徒のさらなる英語運用能力の育成をめざす。
- (2) 長年に亘り研究開発を続けてきたスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業指定校・スーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワーク校としての強みを活かし、「課題研究」の深化・精選に努め、広く成果を発信する。
- ア 教科の枠を超え学校全体で「課題研究」（探究活動）に取り組む。
- イ 生徒の発表の機会を確保するとともに、これまでの探究活動の成果の普及・発信に努める。
- ウ これまで築いてきた能勢分校、豊中市、地域の小中学校、大阪大学・大阪工業大学との連携を踏まえ、生徒の「知りたい」知的好奇心を総合的な学力へと伸ばすさらなる学びの充実を図る。
- (3) キャリア教育の充実を図り、将来に向けての夢の開拓の機会を多く設けることで、高い志や夢を掴み自己実現に向けて励む意欲を育てる。
- ア 幅広い年代・キャリアの卒業生を含む社会人・大学生等との対話、講話、講演会の機会を設け、未来社会について考えると同時に自分自身や自己の将来について考える。
- イ 全員が志望大学のオープンキャンパスに参加し、参加報告書の作成にあたりとともに、京都大学、大阪大学等での研究室見学を促進する。
- ウ 「課題研究」の取組みの中でT A（ティーチングアシスタント）として大阪大学を中心とした大学生・大学院生の指導助言を受ける機会を増やし、知的な刺激を受けるのみならず、身近なロールモデルと接するキャリア教育に資する。
- (4) 第一志望大学への希望実現
- ア 土曜講座等や自習室の活用を習慣化し、自主的・自律的な学習習慣の確立をめざす。
- イ 三年間の指導計画に基づく計画的な進路指導と、生徒との信頼関係に基づく伴走者・支援者としての進路指導を継続する。
- * 京都大学・大阪大学・神戸大学・大阪公立大学の合格者数120名以上（現浪合計）を令和9年度においても維持する。
（R4 123名、R5 126名、R6 121名）
2. 地域連携や協同的な経験を重ねることで自他を敬愛・尊重する豊かな人間性を身につけた、社会に貢献し次代を牽引する生徒の育成
- (1) 自他を敬愛・尊重する豊かな人間性の涵養
- ア 「志学（こころざしがく）」の取組みを継続する。将来のグローバルリーダーとしての資質を養う取組みを「志学（こころざしがく）」として継続し、地域の施設、中学校、小学校、幼稚園、保育園、高齢者施設、自治会等における活動に参加する。協力・支援・協働するボランティア等の体験活動を行うことで、道徳観や学びに向かう力を育成する。
- * 令和9年度まで「志学」の取組みの一つである地域交流事業の参加者（対象2年生）100％維持。（R4 100%、R5 100%、R6 100%）
- イ 豊中高校能勢分校が有する豊かな自然・さまざまな教育資源の活用により、生徒自治会活動や課題研究の取組みの充実を図る。
- ウ 三年間の人権教育計画に基づき、人権や命の大切さ、多様性を尊重する教育を推進する。
- (2) 知・徳・体のバランスのとれた教育による全人的な成長をめざす。
- ア 学校行事や部活動における生徒の活躍の場を活かし、協同的な経験や創造的な経験を重ねることで、人間的な成長を促す。
- イ 部活動加入率（4月時点）90％以上を維持し（R4 87%、R5 93%、R6 98%）、学習とのバランスのとれた活動を通して、協同的で豊かな学校生活の担い手としての自覚を育てる。
- ウ 細やかな教育相談体制を継続し、生徒の心のケアに努めるとともに、障がいのある生徒や支援を必要とする生徒とともに生きる風土を学校全体で醸成する。
- エ 本校「いじめ基本方針」に則り、事象が生起した際には迅速かつ組織的に対応する。
- (3) 英語運用能力を伸ばし国際感覚を磨き、多様な文化や価値観に触れ、多くの出会いを通して自己を見つめ世界に羽ばたく気概ある生徒を育てる。
- ア コンセプトの異なる複数の海外研修・国内研修を実施し、英語運用能力の育成とともに、多様な文化や価値観に触れて国際感覚を磨く。
- イ 1年次の課題研究において、大阪大学等の留学生との英語による交流を実施し、英語運用への意欲を喚起する。
- ウ 1・2年生の希望者対象の英語即興型ディベートの継続や、英語での課題研究発表に挑戦することでさらなる英語運用能力の育成をめざす。
- * CEFR-J B1・2レベル相当以上の生徒を、1年生は10名以上、2年生は15名以上、3年生は85名以上（計110名以上）を令和9年度においても維持する。
3. 組織力の向上と働き方改革に向けた取組み
- ア 65分校時のよりよい運用を図るとともに、引継ぎ・連携・協力体制を重視することで、組織的な業務改善をさらに追求する。
- イ PDCAサイクルによる業務の進行管理に努めることで、効率的な業務の推進を図る。
- ウ 部活動方針を遵守し、適正な指導・運営に係る体制の構築を行うことで、教職員の時間外在校等時間の削減を図る。
- エ 学校の魅力や取組みを保護者・地域・府民に伝えることで、理解を促進する。
- * 時間外勤務が年間720時間を超える教職員数をR9年度に0にする。（R4 22名、R5 12名、R6 10名）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1. 確かな学力の育成とキャリア教育の充実による第一希望の進路実現	(1) 学習指導要領を踏まえた確かな学力をつける授業・教育活動の推進	(1) ア・「豊高教科スタンダード」を策定することで、教科・学年が共有して効果的な学習につなげる。 イウ・65分授業の運用やICTの効果的な活用を含め、授業力向上のための取組みを継続する。 エ・4技能統合型の英語授業を継続し、英語運用能力を育成する。	(1) ア・「豊高教科スタンダード」の策定 アイウ・生徒自己診断「授業内容は自分の学習・発達に役立っている」90%以上維持[94] ・生徒自己診断「授業等でICT機器を効果的に活用している」90%以上維持[95] ・教員自己診断「教員間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」90%以上[89] ・教員自己診断「授業等においてICT機器を効果的に活用している」90%以上維持[92] エ・CFR-J B1・2レベル相当以上の生徒数150名以上維持[169]	
	(2) SSH事業指定校、SGHN校として、探究活動「課題研究」をさらに深化させ、成果発信	(2) ア・新分掌「GL推進部」を立ち上げ、課題研究を、これまでの「文科」「理科」統合することで、文理融合型の探究活動を可能とし、研究活動を深化させる。 イ・校内外での生徒発表を促進し、成果の発信・普及に努める。 ウ・豊中市・能勢分校・小中学校・高校・大学との連携を強化する。	(2) アイウ・新分掌「GL推進部」を立ち上げる。 ・生徒アンケートにおける課題研究に関する活動に肯定的な回答90%以上維持[] ・SSHアンケート「科学に興味関心をもった生徒」90%以上維持[95] ・文科課題研究アンケート「課題研究に興味関心をもった生徒」80%以上維持[] ・SSH国内外研修参加生徒数延べ400名以上維持[410] ・豊中市、能勢分校、地域、小中学校、高校、大学との連携行事实施・参加回数[新規]	
	(3) 高い志や自己実現への意欲をはぐくむキャリア教育の充実	(3) ア・卒業生を含む幅広い年代、キャリアの社会人・大学生を講師に迎え、進路講演会や講話等の機会を多く設ける。 イ・京都大学、大阪大学、神戸大学、大阪公立大学・関西学院大学等の行事・見学会・説明会への参加、研究室訪問を促進する。 ウ・「課題研究」における大学教授等の学識者やTAによる指導の機会を増やす。	(3) アイ・生徒自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」90%以上維持[97] ・保護者自己診断「進路や職業について適切な指導を行っている」80%以上[86] ア・進路講演会・講話等の実施回数10回以上[11] イ・説明会、見学会、行事等への参加者150名以上[208] ウ・大学教授等の学識者やTAによる指導の依頼人数 延べ50人以上[延べ46回]	
	(4) 第一志望の進路実現	(4) ア・授業、土曜講習・サポートプログラム、自習室等のほか、進路指導3年間の指導マップをもとに強力な進路指導を継続し、第一志望の進路実現に向けて粘り強い努力を支援・指導する。	(4) ア・スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)及びグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数100名以上を維持[合格者数現役浪人合計111] ・京都大学・大阪大学・神戸大学の当初志願者200名以上[232]	

府立豊中高等学校

2. 豊かな人間性の涵養	(1) 豊かな人間性の涵養	(1) ア・豊中市や能勢町と連携し、地域の施設、中学校、小学校、幼稚園、保育園、高齢者施設、自治会等における活動に主として2年生が参加し体験的な活動を行い、自己有用感や社会貢献の志を育てる。 イ・能勢分校との交流活動を充実させる。 ウ・三年間の人権教育計画に基づき人権教育を実施し、人権や命の大切さ、多様性を知り自他をリスペクトすることを知る。	(1) ア・2年生全員参加 100%[100] ・生徒自己診断「地域や社会、世界がより良くなるためにできることに取り組んでいる」80%以上[77] イ・能勢分校との相互交流等の充実を図り、体験の機会を持つ。10 回程度[7] ウ・3年間の人権ホームルームの実施に加えて、1年2年次に外部講師による人権講話の機会を設ける。 ・生徒自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」80%以上を維持[87]	
	(2) 知・徳・体のバランスの取れた教育	(2) ア・体育大会・文化祭・豊音祭造形二科展家庭科展示等の学校行事や部活動を奨励する。 イ・部活動加入奨励するとともに、学習との両立を配慮する。 ウ・スクールカウンセラー等必要な外部専門人材と連携し、助言を活かして細やかな教育相談・生徒指導・支援教育を継続する。 エ・いじめをはじめとして事案が生起した際には迅速かつ組織的に対応する。	(2) ア・生徒自己診断「学校行事は楽しく工夫されている」90%以上維持[97] イ・生徒自己診断「学習と部活動を両立している（入部者のみ）」80%以上[86] ウ・生徒自己診断「担任や担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」70%以上維持[74] エ・生徒自己診断「先生はいじめについて真剣に対応してくれる」90%以上[96]	
	(3) 国際交流やグローバルな活動による多様な文化・価値観理解の促進	(3) ア・英国、アメリカ、シンガポール、ベトナムなど国際性を養う海外研修や国内語学研修を継続実施・参加促進する。 イ・1年次の大阪大学留学生との交流会を継続する。 ウ・1・2年生希望者対象の英語即興型ディベート講座や課題研究の英語での発表の機会も継続し、運用能力の育成を促進する。	(3) ア・参加生徒数延べ 90 名以上維持[96] ・交流を重ねている学校と姉妹校提携を結び、継続して交流を実施していく。 イ・1年生全員の留学生との交流会の継続実施 ウ・ディベート講座、課題研究英語発表の実施	
3. 学校力の向上と働き方改革	・組織としてのパフォーマンスを向上させつつ業務改善するために、業務に対する意欲の喚起と、連携・協力体制の整備に取り組む。	ア・会議のさらなる精選に努めるとともに、引継ぎのロス縮減や繁忙期における協力体制の整備を全員で心掛ける。 イ・新たな教育課題に向き合うために、常に PDCA を意識し、教育活動の新陳代謝を心掛ける。 ウ・部活動方針を遵守し、適正な指導・運営に係る体制の構築を行うことで、教職員の時間外在校等時間の縮減を図る。 エ・本校の魅力や特長ある取組みを教職員で共有し、生徒・保護者・地域・府民に伝えて本校への理解を促進する。	ア・教職員自己診断「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動がなされている」85%以上維持[92、R5は86] イ・教職員自己診断「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」85%以上[82] ウ・年間 720 時間以上の時間外勤務時間の教職員を 0 にする。[10] エ・保護者自己診断「学校は情報提供の努力をしている」80%以上[81]	